

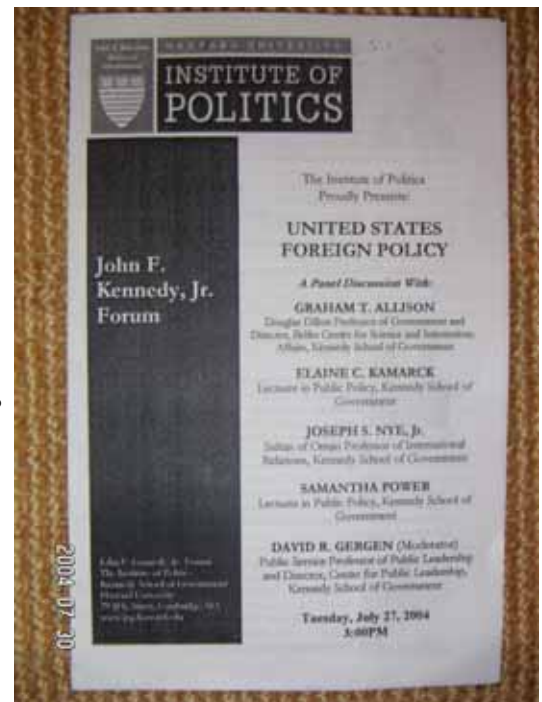
ハーバード便り

(夏休み Web 公開特別号・2004 年 8 月 1 日)

1. ケネディ・スクールの討論会

7 月末、ボストンでは民主党の大統領候補を決定する全国大会が開催されました。隣接するケンブリッジ市にあるハーバード大学でも、時期を同じくして内政・外交に関するパネル・ディスカッションが開かれています。私がいくつか出席したもののの中で、ケネディ・スクールで行われた John F. Kennedy, Jr. Forum: United States Foreign Policy という催しをご紹介します。

ケネディ・スクールでは、この前日にも内政に関するパネル・ディスカッションが開かれるなど、政治系大学院にふさわしく様々な催しが行われました。外交政策パネル・ディスカッションは、ケネディ・スクールの入り



口を入ってすぐ、中央ホールでの開催です。この中央ホールは、5 月にもノーベル平和賞受賞者のシリン・エバディ氏の講演が行われるなど、多くの重要なスピーチの舞台になっています。

小さくて見にくいですが、左から D.Gergen 教授(司会者)、G.Allison 教授(元国防次官補)、S.Power 講師(ピュリッツァー賞受賞者)、J.Nye 教授(元国防次官補)、E. Kamarck 講師(Ph.D,U.C.Berkeley)といった錚々たる布陣です。

討論の中では、現ブッシュ政権の外交政策がアメリカの従来政策からの逸脱なのかどうか、テロ後のアメリカの外交政策をいかに改善していくべきなのか、対外的な信頼回復をどのように行うべきか、等々のテーマについて議論が戦わされました。途中、アメリカの外交政策の誤りについて、それが「目的」をめぐるものなのか「手段」をめぐるものなのか、Allison 教授と Nye 教授の意見が対立する場面も。大統領選後のアメリカ外交は、はたしてどのように変化していくのでしょうか。

2. ケンブリッジ市の公開講座

大学だけではなく、隣市のボストンに負けじと、ケンブリッジ市でも市主催の公開講座を開催です。その一つが、同市議会(City Council)が採用している比例代表制をアメリカに普及させようという講演会。市民団体やハーバードの教授をパネルに、模擬投票を組み入れた楽しい催しでした。

講座の開かれた市庁舎の Sullivan Chamber です。なかなか
に重厚な部屋ですよね。入るだけで、ちょっと緊張しました。



ここで主張された比例代表制はやや特殊で、Instant Runoff というシステムを使っています。有権者は順位をつけて候補者に投票し、落選候補に投じられた票はあらためて上位の当選可能な候補者に配分しなおされるというもの。もし日本でこのような比例代表制を導入したとしたら、どのように受け止められるのでしょうか。比較して考えると興味深いですね。



模擬投票は、好きなビザの具を選ぶというテーマで、手動で集計していました。実際はコンピュータ化されています。

(ハーバード大学客員研究員 早川誠：mhykw@ris.ac.jp)